

卒業論文

国内コンテンツ産業 における流通の 多様化・グローバル化 に関する研究

斎藤正武ゼミ

中央大学商学部金融学科
学籍番号：09C4163005J

服部拓也

国内コンテンツ産業における流通の多様化・グローバル化に関する研究

中央大学商学部金融学科

斎藤正武ゼミ

服部拓也

現在、日本は深刻な不況下にある。一刻も早くそのような状況を打破する必要がある。そのような状況の中で、日本の外貨獲得の新たな産業の柱として注目を集めているものの1つに「コンテンツ産業」がある。経済産業省は、2010年、10年計画で海外市場の収益拡大やコンテンツ産業の人材育成を目標にして、「クール・ジャパン戦略」という戦略のスピードをさらに加速している。日本のコンテンツは、世界的に高い質を維持しており、評価されている。しかし、その潜在力と波及効果から今後の期待度は高いが、期待通り利益に転嫁できていない。世界的に見ると、先進各国において、コンテンツ産業は自国のシフトパワーの源泉であり、国主導で産業強化に乗り出している。

そこで本研究は、日本で開発され、海外に展開している8ジャンル80作品を対象に、流通部分の時系列な観点から、実態調査を行い、考察をした。

具体的には、80作品すべてにおいて、いつどのようなメディアに展開したかについて調査し、流通プロセスをさらに3つのフェーズに分けて、定量的・定性的な分析を行った。

結果として、1) ITの進化の速度に対応して、流通プロセスにおいて、他のメディアへの展開（海外展開への即時性）のスピードが上がってきたこと、2) 複数のメディアへの迅速展開が近年可能になったこと（全方位展開の傾向）、3) ジャンル間の親和性が異なること、4) 近年、以前のジャンルにとらわれない特異なコンテンツが出現してきたこと（コンテンツの多様化）、がいえる。

今後の課題としては、今回は触れることの出来なかったコンテンツ制作や展開に関わる資金面に着目した分析、開発プロセスにおける実態分析、また、国として産業振興のためにどのような助成をするべきか、について考察することがあげられる。